

速報ですが、寒気が厳しいながら晴天の下で開催されましたスーパー耐久第1戦予選・決勝のご報告をさせていただきます。

ワンデイ開催となったもてぎラウンドは、決勝当日の朝8時よりA・Bドライバーの合算ラップタイムで順位を争う公式予選がスタート。

本年度よりAドライバーとなった佐々木孝太選手がコースクリアを上手く掴み最初にアタックを開始。スタッフ全員が息を呑む中、ST2クラスのコースレコードとなる200523という驚異的なペースでコントロールラインを通過。勿論、この時点で暫定の予選トップ。そして30分のインターバル後にBドライバー予選が行われ、同じく本年度よりBドライバーとなる菊地靖選手がアタックを敢行。本人としては若干不満の残るアタックとなるもののキッチリと纏め上げ、その結果、昨年度より参戦を開始したエボリューションで初となるポールポジションを獲得。両ドライバーのドライビングスキルの高さと同様となったエボリューションの強さを大いにアピールすることとなる。

そして迎えた決勝。綺麗なスタートを切った佐々木選手はST2クラストップのまま第1コーナーをクリア、レースを引っ張る形での展開となる。後続の動きを確認しつつ多少ペースを緩めながら04~05秒台でラップを重ねる佐々木選手。しかし、その11号車を唯一追走してくるのは56号車のみで3位以降は序所に離れ始める。

11周目、予想通り追走していた56号車がプッシュを開始するが、敢えて攻防することなく進路を譲る。A・Bドライバーのドライビングレベルが拮抗している弊社チームとしてはゴールまで安定したハイペースを刻めるが、一般的にA・Bドライバーのラップタイム差はどうしても発生する為、他チームがAドライバー走行時にBドライバーのリカバリーを考慮してプッシュしてくるのは目に見えていたからである。予想通り先頭に出た56号車は一機に03秒台にペースアップし逃げを打つが、その翌周、突然のペースアップにミッションが悲鳴を上げスローダウン。11号車は労せずして再びトップに返り咲く。

その後も安定したペースでレースを引っ張る11号車は、それでも2位を序所に引き離し28周目には+6秒差に広げる。このまま予定していたルーティンピットでドライバー交代をと、想定通りの組立てでレース展開をしていた30周目。突然の悪夢が襲いかかる。ドライバーから無線で「エンジンが吹けなくなった！」と一報が入り、止む無く予定より早くピットインし、車両状況を確認しながらドライバーを菊地選手に交代しコースインするも、症状は改善されず再度ピットへ。

プラグを換え一度息を吹き返したエンジンだが、10数周後再び同じ症状となりピットイン。周回数は46周目。この時点でエンジンに大きなダメージが発生していることが判明し、チームは作戦を大幅に変更。84周で争われるこのレースでの完走義務周回まで、あと12周。残りのこの周回を何とか完走し1ポイントでも取りに行こうと、傷ついたマシンを労わるかのようなスローペースを覚悟でコースイン。いつ止まってもおかしくないマシンをドライバーは細心の注意を払いながら走らせ続け、規定周回数をクリア。1度ピットに戻りウエイティングをし、トップがゴールする直前に再びコースイン。満身創痍ながら無事チェッカーを受け、貴重な9ポイントを勝ち取ることに成功する。

新体制となった緒戦。完走クラス6位とほろ苦いスタートとなった今大会でしたが、09シーズンに向けて両ドライバー、そしてレースカーのポテンシャルの高さを十分に確認出来ました事、また厳しい中でも貴重なポイントも上げられた事は、非常に大きな収穫であったと思います。

まだシーズンは始まったばかり。チームのムードは非常に良く、この1戦での出来事を糧に次戦向け最善の努力で挑む所存であります。

今後共変わらぬご声援、何卒宜しくお願い申し上げます。